福祉教育推進事業

平成25年度　おおさき福祉学習推進セミナー

主催：社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会　共催：宮城県障害者福祉センター
後援：大崎市教育委員会

開催日：平成 25 年 7 月 24 日㈬~7 月 25 日㈭
会　場：大崎市松山保健福祉センター

当社会福祉協議会では、福祉･ボランティア活動協力校指定事業を通じて「やさしさ」「支え合い」「助け合い」の心を育む福祉学習を推進しています。昨年に続き、市内学校教諭、社協職員等を対象に（市内小中学校･高校15校参加）、地域と連携を図った福祉学習の実践に向けて、地域社会全体で取り組む福祉学習体験プログラム作成の手法やキャップハンディ体験の実践を学ぶことを目的としたセミナーを開催しました。

【1日目】7月24日(水)
　研修①「地域と連携を図った福祉学習プログラム」
　研修②「大崎市版 福祉学習プログラムを作ろう」
　講師:一般社団法人 コミュニティ･4･チルドレン　代表理事　桑原　英文 氏
【2日目】7月25日(木)
　研修③「もうひとつのキャップハンディ学習」
　講師:宮城県障害者福祉センター　指導員　熊谷　明子 氏

福祉学習について、小規模作業所の利用者と子どもが製品を作り、地元商店街で販売する神戸市の事例紹介等から、体験を通して障がい者への理解や金銭教育にもつながっていることに触れ、グループワーク形式により、多様な福祉をテーマに、福祉学習が目指すもの（「助け合う人や地域」を目標に、福祉課題、地域、学校の特色を考えた取り組み手法等）を考え、検討しました。

様々な立場からどのような取り組みをしたらよいか、―『地域には社会資源が豊富にある。あらゆる団体、機関を巻き込んで子どもを地域ぐるみで育てることが大切』―地域ぐるみで取り組む福祉学習のプログラム作成について学びました。

また、視覚障がい、聴覚障がいについてのキャップハンディ体験を通して、障がいを持つ方の大変さを知ることだけで終わらせず、その方にとって何が必要なのかを考えることが重要であることを認識し、実践からの学習プログラム作成につなげました。

今後も、地域における福祉教育の推進に向けて、学校との情報共有、交流の場として、継続した研修の機会を設けていきたいと考えています。

古川高等学校課外授業　平成25年5月21日

生徒の約6割以上が「被災県である宮城県に居ながら、沿岸部被災地を訪れたことがない」というアンケート調査（古川高等学校生徒対象）結果から、被災地体験プログラム（被災地視察研修）として、2学年がクラス毎に気仙沼市･亘理町･石巻市に出掛け、復興に繋がる活動を実施しました。

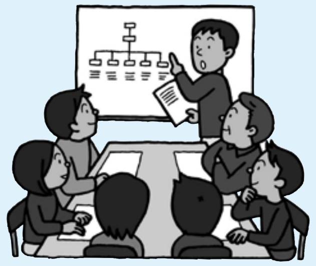
古川地域学校防災研修会　平成25年7月26日

被災県である宮城県では、全国に先駆けて防災主任の配置が行われましたが、具体的な取り組みや運営手法などについて示されておらず、手探りで悩んでいた現状から、福祉学習･防災学習、そして学校と地域住民との共助による地域づくりを進める上で大切な役割を担う防災主任及び教職員への支援として実施しました。

参加した教職員の皆様から「災害時に避難所となる学校もあることから、平時から学校と地域住民が連携し、防災への取り組みを協働して進めていく大切さを学んだ。」、地区振興協議会長･行政区長さんからは「地域の防災力を高めるためには、避難所としての学校は欠かせない。これまで以上に学校との繋がりを大事にしていきたい。」とのお話しをいただきました。

古川第二小学校学校防災研修会　平成25年8月22日

学校防災研修会（7月26日実施）と同様の内容について、防災主任のみでなく、校内の全教職員に学んで欲しいという学校の要望を受けて、時系列ワークを通して、災害発生時においての地域住民の行動や校内での児童･生徒、教職員の動きを確認することを目的に実施しました。

古川地域防災マップ作成研修会　平成25年8月27日

東日本大震災での経験をもとに、地域における防災･減災への取り組み、学校教育における防災･福祉学習に対する関心が高まっており、防災マップづくりを通じて、地域住民の防災意識の向上や住民みなさんのコミュニケーションの機会、場づくりを目的として実施しました。